



1. ニュース&トピックス

トランプ大統領、レオポルド・ロペスの“即時”釈放を求める

米国大統領はベネズエラで収監されている政治犯レオポルド・ロペスの妻リアン・テイントリ夫人をホワイト・ハウスに迎えた後、自身のツイッターでレオポルド・ロペス氏を”即時“釈放するよう求めた。トランプ政権はその2日前にベネズエラのタレク・アイサミ副大統領を麻薬取引により米国財務省のブラック・リストに載せたばかりである。ツイッターによればレオポルド・ロペス夫人との面会にはペンス副大統領およびマルコ・ルビオ共和党上院議員も同席した。

ベネズエラ政府は米国政府の措置を内政干渉であると非難している。本年2月16日でレオポルド・ロペス氏の収監は満3年を迎えた。(2月16日、El Pais 紙)

野党、エル・アイサミ副大統領の国会召喚を要求

エル・アイサミ副大統領はニューヨーク・タイムズ紙に広告を出し、米国が同副大統領に麻薬取引の容疑をかけていることに反論した。これに対しベネズエラの野党は同副大統領が本件解明に協力し、国会への召喚に応じるべきであるとしている。(2月24日、CNN)

軍用ヘリコプターの行方不明、副大統領らを国会召喚か

野党が多数を占めるベネズエラ国会は、昨年12月30日に13名を乗せた軍用ヘリコプターが行方不明になった件につき説明するため、本日エル・アイサミ副大統領およびパドリノ・ロペス国防大臣等を召喚することを決議した。このヘリコプターには野党議員とその家族1名のみが乗っており、ガルシア陸軍総司令官、オルテガ検事総長およびオンブスマンのウイリアム・サアブの召喚も求められた。(2月23日、EFE 通信)

2. 寄稿： 「百人一首コンサート」

ピアニスト 中根美枝

ベネズエラ協会会員のみなさま、初めまして。私は2月4日国立の白十字で伊藤昌輝先



生、エレナ・ガジェゴ先生と一緒に百人一首のコンサートをしました中根美枝です。伊藤先生のご紹介で寄稿文を載せていただけますことに深く感謝いたします。当日はベネズエラ協会の皆様にも多数ご参加いただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで 世界初のスペイン語による百人一首コンサート第1回目を大盛況の中、終えることができました。

百人一首をどう捉えるかは、人それ

ぞれではあると思いますが、私の場合、歌い続けてきてますます惹かれるのは、一言でいうなら人間の面白さ故であります。今も昔も変わらない、人の世に暮らす難しさ、思うようにいかない人間関係や胸焦がす恋、受け入れるしかない諸行無常も物言わぬ海や夜空や月や風に溶け、四季の移ろいに彩られながらいずれ心穏やかになれるのも和歌の持つ不思議なパワーなのかと思わされます。

以前、京都の宇治の平等院を訪ねたとき、鳳凰堂にあった雲中供養菩薩の楽器を奏でたり微笑みを浮かべて踊っていたりする何体もの仏像を見て涙が溢れました。仏教のものではありますが、人が救いを求め心が浄化される時、音楽があり、踊りがあり、そして微笑みはその道しるべとなっていたからです。西洋楽器のピアノで歌っている私も何かそれと同じような気がして嬉しかったものです。

和歌に歌われた人の様々な正直な心は、わずかに31文字に表わされ、序詞や掛詞などでイメージがよりいっそう深まり、歌人の吐息さえ感じられるような歌もあれば 想像の世界に遊び思わず笑いたくなるような歌も。なぜこんな軽い題材が？とってしまう歌もある中、そこに浮かび上がるのはひとえに愛すべき人間像であります。みんな思うようにいなくても生きて生き抜いている、その思いから生きる力を頂くような気さえします。やめられないわけであります。

そして今回スペイン語が加わりました。これこそまさに西洋の響きです。そのスペイン語の響きや言葉のキレ、時にその柔らかさは意外な程心地よく、一つの楽器の響きとしてアンサンブルとなりました。会場に来ていた友人の浅草芸人は スペイン語がわからなくてもエレナさんの微笑みが言葉より伝わるものがあったと話していました。



前半と後半では趣を少し変え、弁士風に歌の説明を加えたのも好評で（私の夫）、笑いやブラボーもあちこちで起こりました。

江戸時代に流行ったと言われるもじり百人一首は、百人一首を元にしたパロディーで笑って活気づいたものようですが、おもしろおかしいもので心ほぐされれば 歌人の身分も吹っ飛んでまっすぐに人の心だけが入ってくる、そんな空気も取り入れたいと思っの演出です。古典という固定概念を外せば、そこには確かに生きた人の熱い心があります。ラテン風に言えば情熱でしょうが、日本人のそれは、ひたむきな思いとか人知れずの思いとか、心に深く静かに秘める思いであり信念のようなものです。今そういうものが消えかかっている気がしてなりません。

今の時代だからこそこの生きた日本の精神文化遺産である百人一首をもっともっと多くの人に味わってもらいたいと思うし、毎日聞かされる世界中の不穏な空気はいつしか伝わり何か心がざわつくばかりです。ならば逆にこの正直な人の心、自由にもの思う豊かな百人一首を世界 に向けて発信しようではありませんか。私は本気で思っています。



そういう意味でも、伊藤先生が訳されたスペイン語による百人一首は、まさに世界に希望をもたらす感じが致します。必要に迫られて世の中に放たれたものだと私は思っています。次回の百人一首コンサートは6月3日（土）**Café y Libros** ラテン文化サロンです。どうぞいらしてください。（了）



! Feliz primavera para todos!